

# かわさきTMO通信

<毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

## 2010・2・3月合併号 No.31

- 第10回近未来フォーラム報告
- 3月のTMO運営協議会報告
- 回遊性の向上を目指して
- 4月から新たな体制となるかわさきTMOについて

発行元：(財)川崎市産業振興財団  
 発行責任者：理事長 君嶋武胤  
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克  
 発行日：2010年3月30日  
 発行部数：1,900部  
 ◆連絡先  
 TEL：044-548-4105  
 FAX：044-548-4146  
 E-mail：tmo@Kawasaki-net.ne.jp  
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。3人のタウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

### ◆第十回近未来フォーラム報告

三月十七日、「かわさきの近未来ブランドを創る」をテーマに、多方面から四三名の参加を頂き、開催しました。今回は、全国へ、アジアへと発信するにふさわしい川崎駅周辺の都市ブランドづくりへのヒントや人材の発見を目的として開催しました。

(財)川崎市産業振興財団 君嶋理事長挨拶、タウンマネージャーからの三年間のTMO活動の概要報告後、かわさきブランドづくりのトップランナーたちに大いに語っていただきました。  
 ○パネリスト(発言順)

川崎アゼリア株式会社 営業部長兼 商店会事務局長 板橋智恵氏 / 川崎信用金庫常勤理事・情報調査部長 大西淳夫氏 / 株式会社チッタエンタテイメント取締役 土岐一利氏 / 川崎銀座商業協同組合理事長 小林一三氏

### ◆ブランド化につながる取り組み

社会や環境に貢献することをアピールするマーケティング活動やイベント活動に取り組んでいるアゼリア、地元密着の企業として川崎の高い可能性を常にウォッチング・支援している川崎信用金庫、百五十人からスタートして今は三千人が参加するまでに

カワサキハロウインを育てたチッタエンタテイメント、かわさきバスカ(路上演奏者)に場所を提供して商店街の個性をPRする銀座街など、それぞれが様々なブランド発信をしてきたことが伝えられました。

### ◆何を発信していくのか

川崎には資源が多すぎるがゆえに、ブランド化としての打ち出しが分散しており、結果として情報発信が曖昧になっていることが指摘されました。

それだけに、今後は「このまちに来てみたいと思ってもらえるまちづくり視点」「政令指定都市で人口増加率トップなど川崎のポテンシャルの高さを活かした視点」が重要であり、また、「川崎駅に降りる目的や仕掛けづくり」「企画持ち込みなどの外部への働きかけ」「地元ブランドとして根付かせる継続的な取り組み」が欠かせないとの意見が出ました。

『かわさきブランド』をどこに定め、どのように発信していくのか、結論が出るまでには至りませんでした。このフォーラムをきっかけとして、具体的進展があることが期待される内容でした。

(マネージャー 片岡由美)

板橋氏



大西氏



土岐氏



小林氏



パネルディスカッション風景



### ◇三月のTMO運営協議会報告

三月二十六日、今年度第三回目のTMO運営協議会を開催しました

#### ①かわさきTMO活動成果報告について

平成一九年度から二一年度までの三年間に、三人のタウンマネージャーを常設し、「回遊性・協働・連携」の創造を目的として展開した各種活動により、「商店街の一体的対応への基盤づくり」、「川崎駅周辺地区の企画提案組織としての認知」などの成果が表れたことを確認するとともに、かわさきバスカー、ワンコインバス企画提案イベント・情報事業（フェスティバルなかわさき、近未来フォーラム等）、商店街協定構築、情報発信活動（TMO通信の発行等）、購買スタイル実態調査、歩行者通行量調査などの実施結果を振り返りました。

また、バスカー事業の目的、バスカー認定方法、スポットの管理等について明確に定めた「かわさきバスカー運営規約」及び「かわさきバスカールール」の制定を承認しました。

#### ②平成二二年度以降のかわさきTMOの組織体系及び活動内容について

今後のTMOの組織体系の基本的

考え方として、①「会則」を整備し、タウンマネジメント関係者それぞれの「役割分担」を確認することにより、効率的なタウンマネジメントの実施体制を構築する、②地元事業者等の積極的な参画による地域自立型マネジメント体制の強化を図ることを前提として、川崎市からの財政的支援を受けつつ、各種事業を実施する、③商業まちづくりに関する専門的な知見により調整的な役割を担うタウンマネージャーを任用する、④専門技術の必要などに応じ外部専門家・専門業者等を活用することを確認した上で、現行のTMO運営協議会会則を改正し、「かわさきタウンマネジメント機関会則」として、会議（総会・役員会・プロジェクト部会）、会員の役割・議決権等を規定した新規会則の制定、並びに川崎市からの補助金交付と業務委託により実施する平成二二年度事業計画及び当該予算の総枠を承認しました。なお、各個別事業の具体的な実施計画及び予算額については、五月頃の開催が予定される総会において決議することになります。

（経営支援課 瀧村昭二）

### ◇回遊性の向上を目指して

かわさきTMOが、これまで取り組んできた大きなテーマのひとつに回遊性の向上があります。そして、この取り組みの中で気付いたのは、回遊性の向上は、多くの要素が組み合わさって実現されるということです。

移動の利便性や楽しさを高める交通手段や歩行空間が整備されることも大切な要素であり、また、移動の障壁となる放置自転車や、はみ出し看板・陳列などをなくしていくことも必要です。そして、回遊性を生み出す原動力となるのは、街に来る人々の移動を促す様々なスポット（一軒のお店・一人のバスカーから、大きな施設・イベントまで）が、街中のあちらこちらに点在していることだと思います。回遊性とは、実に、街を舞台に活動するすべてのプレーヤーが、エリアや職種の壁を超えて、協力して創っていくもののような気がします。

四月からの新生TMOは、こうした様々な主体が協力体制を築くための調整の場として機能し、川崎駅周辺の街の活気と魅力を更に高める大きな推進力となっていくことと思います。

（マネージャー 荒木淳）

### ◇四月から新たな体制となるかわさきTMOについて

平成十九年四月に再生かわさきTMOとしてスタートして三年が経過しました。当初より三年を一つの区切りとして、川崎駅周辺の活性化と市民に期待される街づくりのマネージャーを行ってまいりましたが、この四月から次のステップを踏み出します。

これまで、川崎市産業振興財団及び三人のタウンマネージャーがTMOの運営に主導的な役割を果たしてきましたが、新年度からは「地元事業者、地元企業関係者、市民団体などが核となる自主的運営」に転換します。

既にここ一年のTMOの活動及び議論は地元事業者の積極的な活動や発言・提案が目立っており、新年度から無理なく主体の移行は進んでいくものと思われれます。四月からタウンマネージャーは一名となりますが、新しい体制に則した形で柔軟で機動的な対応に努めてまいります。

四月から新たに幅広い活動態勢となり、活気ある快適な街づくりを推進するかわさきTMOにどうぞご期待ください。

（マネージャー 笹原 克）